

富良野市

第3次学校教育中期計画

(素 案)

富良野市教育委員会

富良野市第3次学校教育中期計画

目 次

「はじめに」		
「富良野市民憲章」		1
「富良野市第3次学校教育中期計画の策定にあたって」		2
「富良野市第3次学校教育中期計画について」		3
「基本理念」「めざす姿」		6
「富良野市 ZERO 運動の推進」		8
「富良野市学校教育の推進計画」		9
「具体的実践計画」		
〈知育の木〉	1 教育課程	10
	2 学習指導	11
	3 総合的な学習の時間	12
	4 国際理解・外国語教育	13
	5 情報教育	14
	6 環境教育	15
	7 特別支援教育	16
〈情意の木〉	1 道徳教育	17
	2 特別活動	18
	3 生徒指導	19
	4 ふるさとキャリア教育	20
〈健康の木〉	1 健康教育	21
	2 食育	22
	3 体育指導	23
	4 防災・安全教育	24
〈学びの大地〉	1 学校経営	25
	2 複式教育・少人数指導	26
	3 教育者としての資質の向上	27
	4 家庭の教育力の充実	28
	5 校種間連携・一貫教育の充実	29
「国における教育改革の動向（概要）」		30



富良野市民憲章

わたしたちは、北海道の中心標が立つ、富良野の市民です。

わたしたちは、この美しい自然の環境につつまれながら新しい生産都市をつくりあげるために自信と誇りをもって進みます。

1, 明るく

健康で働くまち富良野

◇推進目標

- ・ 健康な心と からだをつくりましょう。
- ・ 清潔で衛生的な まちにしましょう。
- ・ スポーツに親しみ レクリエーションを工夫しましょう。
- ・ 仕事の合理化をめざし 技術の向上に努めましょう。
- ・ 子どもを すこやかに 育てましょう。
- ・ みんなで仕事をわけあって働く たのしい家庭をつくりましょう。

1, あたたかく

みんなの幸せを願うまち富良野

◇推進目標

- ・ お互いが 心をひらき 話し合いましょう。
- ・ 恵まれない人びとに 温かい手を さしのべましょう。
- ・ ことばづかいに気をつけ 誰にでも優しくしましょう。
- ・ 集会や 会議の時刻を 守りましょう。
- ・ 公共の施設を大切に し 木や花を愛して ゆたかな郷土をつくりましょう。
- ・ 交通の規則を守り 安全なまちにしましょう。

1, 大きく

未来に生きる知性のまち富良野

◇推進目標

- ・ 徳性と 豊かな知性を みがきあいましょう。
- ・ 子どもたちに あたたかく ゆきとどいた教育をしましょう。
- ・ 理想的な 教育環境を ととのえましょう。
- ・ 郷土の文化活動に 進んで参加しましょう。
- ・ 郷土の文化財を 心から愛護しましょう。
- ・ 郷土にふさわしい 衣食住の工夫を いたしましょう。
- ・ 世界の人びとと手をにぎり 平和で高い文化のまちにしましょう。

富良野市第3次学校教育中期計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

富良野市では、平成 20 年度より市内全小中学校が基本理念とめざす姿を共有し、すべての富良野の子どもたちのために、教育実践を進めることを目的に、富良野市独自の中期計画を策定し、取り組んできました。

第 1 次学校教育中期計画（平成 20 年度～平成 24 年度）では、「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」を基本理念とし、「ふるさとへの恵みと文化を愛し 心をかよいあわせながら 豊かな学びを育む富良野の学校教育の推進」をめざす姿として掲げ、地域との協働で未来を拓く学びの大地にしっかりと支えられた「知育の木」「情意の木」「健康の木」の 3 本の木を大きく育てていくことに全力を傾注してきました。

また、第 2 次学校教育中期計画（平成 25 年度～平成 29 年度）においても、第 1 次計画の基本理念及びめざす姿を継承し、取り組んできました。

その結果として、「学社融合事業や学校支援などによる地域に開かれた学校づくり」「演劇や ICT を活用したコミュニケーション教育の推進」「ふるさと富良野の郷土愛を育むキャリア教育」「富良野の自然や地域資源を生かした環境教育」など、富良野の大地にしっかりと根付いた富良野市ならではの特色ある教育が進められてきました。

子どもたちが変化の激しい時代をたくましく生き抜き、自らの未来や社会を拓く「生きる力」を「オール富良野」で育てていくため、これまでの中期計画の成果を継承・発展させ、第 3 次学校教育中期計画（平成 30 年度～平成 32 年度）を策定いたします。

2 中期計画の性格

富良野市では、平成 23 年度から第 5 次富良野市総合計画をスタートさせ、「安心と希望、協働と活力の大地『ふらの』を将来像として、「住み続けたいまち、そして、子どもたちに誇れるまちをめざして」をテーマとして掲げ、まちづくりを推進しています。また、平成 28 年 3 月には、今後の人口減少の克服や地方創生を目的とした富良野市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略を策定し、総合計画の一部として重点的に取り組んでいます。

さらに、平成 28 年に「富良野市教育に関する大綱」を見直し、2 つの基本目標と 3 つの個別目標を達成するための各種施策の推進とともに、総合戦略に基づく 2 つの個別戦略の 11 事業を展開しています。

第 3 次中期計画では、これらの上位計画や大綱の概念を基軸としながら、本市の学校教育の現状と課題を踏まえ、主に義務教育機関における小・中学校の教育に関する実践計画を提示することによって、富良野市の特色ある教育を実現する指針とします。

3 中期計画の期間

本中期計画の期間は、平成 30 年度（2018 年度）から平成 32 年度（2020 年度）までの 3 か年計画とします。

4 中期計画の策定体制

富良野市第 3 次学校教育中期計画の策定に向け、富良野市教育委員会内に 11 名の委員からなる「学校教育指導委員会」を設置するとともに、幅広い視点からの意見や助言を得るため、富良野市校長会、富良野市教頭会、富良野市教育委員会からの意見を広く反映いたしました。

富良野市第3次学校教育中期計画について

1 国や道の動向

国際化や情報化の進展は日々とどまるところを知らず、子どもたちが担う次代の社会は、現在とは大きく変化したものになると予測されます。子どもたちに「生きる力」を育むという教育の基本理念は不変であっても、育むべき具体的な資質・能力については、来たる時代の変化を見越したものとしなくてはなりません。

この「次代を担う」ことについて、平成 29 年に告示された学習指導要領においては「他者（社会）とのよりよい関わりを通じて豊かな人生を切り拓き、社会の創り手となること」とおさえられています。

一人一人が多様な個性や能力を発揮し、新たな価値を創造したり、互いに強みを生かし合い、人が人としてより幸せに生きることのできる「多様性（ダイバーシティ）」に富んだ社会を築いていくには、その担い手となる子どもたちに、知識や技能の習得（何を知っているか・何ができるか）を越えた汎用的な活用能力（目標達成のために知っていること・できることをどのように使うか）を育むことが不可欠です。そのためには、子どもたちが自信をもって成長し、よりよい社会の担い手となるよう、子どもたちの自己肯定感を育む取組を進めるとともに、地域社会との相互信頼のもとで質の高い教育を実践するために、教育課程を編成・推進し、学校を子どもたちにとって主体的・対話的で深い学びの場とすることが責務となります。

また、平成 30 年 4 月に施行された北海道総合教育大綱には「その先の道を切り拓く北海道人」の育成を目指し、「ふるさと（北海道）に思いを寄せる」「社会で自立し共に支え合う」「未来を切り拓く」を基本理念とすることが謳われています。学校と地域社会がともに手を携え、子どもたちが自らの夢や志に向かってチャレンジし続ける場を創り出すことは、新たな地域の担い手を育む確かな礎となります。

「すべては子どもたちのために」「すべての子どもたちのために」という本市教育の主題は、国と道に始まるあらゆる教育施策を貫く基本理念と言えます。

2 富良野市の現状

富良野市は北海道の中心（へそ）に位置し、国際大会にも対応可能なスキー場、ワインや観光・農業等のイベントの定例開催、また富良野演劇工場を中核とした演劇によるまちづくり等、スポーツ・文化の両面から人と人が出会い、絆を結ぶまちです。また、他の自治体に先駆けてゴミの完全リサイクルに取り組み、豊かな自然環境づくりに力を入れるなど、先人の想いを受け継ぎつつ、進取の気風に溢れた人々が集うまちでもあります。

しかしながら、全国的な少子化の傾向に関して本市も例外ではなく、今後も児童・生徒数の減少による学校規模の縮小が進んでいくものと想定され、人数の限られた集団で行われる教育活動において、社会性をはじめこれからの時代を生きる力をどのように育むかが、本市の学校教育の課題となっています。

〈平成 29 年 4 月現在 富良野市小・中学校児童・生徒数・学校数（平成 24 年 4 月との差）〉

○小学校 9 校（-）	児童数 1,070 名（▲205）
○中学校 6 校（▲1）	生徒数 611 名（▲91）

本市ではこれまで、「富良野市学校教育中期計画」ならびに「富良野市 ZERO 運動の輪」を基軸に、学校教育を推進してまいりました。これまでの 5 年間、知育・情意・健康の調和のとれた子どもを育成するため、教育活動全体を網羅した改善・充実に取り組み、次のような成果・課題を見出しました。

【 成 果 】

『知育の木』

- ・富良野の自然や地域の人材活用など、特色のある教育活動が各学校の教育課程の編成に生かされた。
- ・「英語が話せるふらのっ子」事業などを通して、積極的にコミュニケーションを図ろうと、グローバル化した社会に対応する国際理解教育の推進並びに外国語教育の充実が図られた。
- ・特別支援教育マスタープランに基づいた各学校における支援体制の充実が図られた。

『情意の木』

- ・外部人材の活用が進み、児童生徒の心に響く道德教育等の指導体制の整備が図られ、適切な評価に基づく改善が進んだ。
- ・児童生徒や学校、地域の実態を踏まえ、ZERO 運動を中核に据えた道德教育の全体計画の充実が図られた。

『健康の木』

- ・望ましい食習慣の育成について、栄養教諭等と連携し充実が図られた。
- ・学校行事、地域行事や地域の自然との関連を図り、富良野らしいスキーをはじめとするスポーツに親しむ機会の充実が図られた。
- ・安全教育に関して、各学校独自の危機管理マニュアルの整備や各訓練を通して、児童生徒の意識の向上につなげ充実が図られた。

『学びの大地』

- ・小規模校の特性を生かすへき地・複式教育において、個性や特徴、能力を生かす指導計画が図られ、学習意欲の向上につながった。
- ・地域に根ざし、信頼を得る学校経営が充実して、教職員の学校経営への参画意識の高揚や組織の活性化が図られた。
- ・富良野 GROUP と連携したコミュニケーション能力育成研修会の実施など、教師力向上の取組が進んだ。

『その他』

- ・中高の連携による授業交流や学力向上に向けてのプロジェクトチームの設置など着実に成果が上がっている。
- ・自然環境や地域人材などの活用が進んできており、安全教育、キャリア教育、環境教育、国際理解教育など、今日的な教育の指導体制が充実している。

【 課 題 】

『知育の木』

- ・学校種間の連携について、児童生徒間の交流や教職員間の連携等をより一層推進していく必要がある。

『情意の木』

- ・キャリア教育等、充実した実践は進んでいるが、「マイノート」の活用など、計画的な評価を進めていく必要がある。
- ・教育活動全体を視野に入れた道德教育の指導改善に生かす評価の工夫については、実践は進んでいるものの、更に工夫を進めていく必要がある。

『健康の木』

- ・安全教育に関しては、危機管理マニュアルの整備や各訓練を通して、児童生徒の意識の向上につなげてきたが、評価方法をより工夫し、一層の安全の充実を図る必要がある。

『学びの大地』

- ・研究会等への積極的な参加と指導法の工夫等の研修の推進など、教職員の多様な個性が生かされる教育の実現に向けた意識改革や関係機関・団体との連携協力を進めていく必要がある。

これらのことについて、平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果を考察すると、教科に関する調査（国語、算数・数学）では、小学校では国語 B、算数 A、算数 B で全国平均正答率を上回り、中学校では全国平均正答率上回らなかったものの同等の成績を修めるなど、確かな成果を上げています。

また、児童生徒質問紙からは「きまりや約束を守っている」「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」と回答した割合が高い状況にあります。

このことは、授業公開を積極的に進める「地域に開かれた学校づくり」や授業研究を通じた授業改善、「ブックトラック事業」「ブックフェスティバル事業」「学校支援ボランティアの読み聞かせ」等の読書活動の推進、小・中連携の取組、「富良野版キャリア教育」の推進、小規模校での教育の充実、教職員の加配、特別支援教育支援員の配置、長期休業中の「学習サポート」による学習内容の着実な定着、「放課後えいご LAND」「スクールバス乗車時を活用した英語活動」「イングリッシュキャンプ」等による英語教育の推進、演劇的手法を取り入れたワークショップによるコミュニケーション能力の向上、デジタル教科書・電子黒板・タブレット端末等の ICT 化の推進が着実に表れてきたものと考えられます。

なお、「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」と回答した児童生徒の比率が、年を追うごとに高まっているのは、「ZERO 運動」「道徳教育」「特別活動」「生徒指導」など、学校での日常的な指導の成果が複合的に現れたものと考えます。

3 富良野市が目指す学校教育の方策～第 3 次学校教育中期計画の策定に向けて

教育とは人づくりの営みであり、その意義は子どもたち一人一人の可能性、すなわち個性と能力を伸ばし、人間性を高め人格を完成させることにあります。

そうした無限の可能性を「生きる力」とするには、知育・徳育・体育の調和が図られた教育と、それを支える食育の推進が重要となります。そのためには、学校・家庭・地域社会が相互に連携し、それぞれの役割を果たすことが不可欠です。とりわけ、「教育の原点は家庭にあり」の言葉の通り、家庭こそが教育の出発点です。子どもたちに、基本的な生活習慣・善悪の判断などの倫理観や道徳心・また社会的なマナーを身に付けさせることや、学力の向上を図るうえで、学校における教育の質の向上とともに、家庭への教育的支援の充実が必要と考えます。

本市の第 3 次学校教育中期計画策定にあたり、第 2 次計画の成果と課題を踏まえて今後の 3 年間で展望し、「すべては子どもたちのために」の継承・発展が望ましいと考えました。このことにより、学校教育においては「富良野市 ZERO 運動」の視点を基軸に据え、学びの大地にしっかりと根ざした 3 本の木を大きく育てています。すべての教職員が、教育の原点を見つめ直し、主体性や向上性を基本に教育実践の輪を広げていくことが重要です。

子どもたちが来たるべき社会の変化に対応し、よりよい人生と社会を築いていくための資質や能力を身に付けていく姿は、3 本の木が鮮やかな緑がまぶしい活力に満ちた大きな森に育っていくイメージにつながります。

今後は各学校が相互に連携を深め、引き続きすべての子どもたちのために、子どもを育むすべての人々とともに、ふるさと富良野に心が向く質の高い教育活動を追究してまいります。

◎ZERO 運動の視点

- 教育（学び）の主体性としての視点
- 教育の原点を見つめ直す視点
- 組織の和、協働の和をつなげる視点

- 教育の自主・自律としての視点
- 教育実践の輪を広げていく視点
- 向上やブラッシュアップの視点

基本理念

自立と共生の未来を拓く
心豊かでたくましい人を育む

豊かな自然の中、優れた文化を育んできた富良野。
私たちは、その自然や文化・伝統を受け継ぎ、
日々の生活との関わりを大切にしながら、
未来へ大きく広げる役割をもっています。
また、富良野の明日に夢や希望を描き、
この地に住む仲間として力を合わせ、
理想の社会の創造に努めていくことも求められます。
そのためには、北海道に思いを寄せる、
社会で自立し共に支え合う、未来を切り拓くことを
育むことが大切になります。
富良野に住む人々が生涯学習を通して身に付ける
「学ぶこと」の楽しさや価値、「生きること」の喜びや大切さを
「未来に拓く力」とする富良野の教育を目指し、
「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」
を基本理念として掲げます。

めざす姿

ふるさと富良野に心に向け
富良野に生きる人々とともに
新たな時代を拓く学校教育の推進

今、富良野の学校教育は、
豊かな自然と文化を有する郷土に
愛情と誇りをもつとともに
夢や希望の実現に挑戦し、
今後の社会を担う自立の精神を備えた人、
そして同じ社会に生きるものとして
共に支えあい、協働して未来を拓くことのできる
心豊かな人を育てることが求められています。
そのためには、主体的に学ぶ「確かな学力」、
他の人を思いやる心や感動する心の「豊かな人間性」、
そして、たくましく生きるための
「健康や体力」を育むことが大切です。
私たちの富良野の教育では、
地域や家庭との揺るぎない信頼関係に基づき
心をひとつにして子どもたちの未来を拓く
魅力あふれた富良野の学校教育を創るため
知育の木、情意の木、健康の木の「三本の木」
そして、その木を育てる「学びの大地」に託した
目標に向かい、取組を進めます。

基本理念

自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む

富良野に育つ三本の木



学びの大地に大きく育て！三本の木 ～学びの心を前に動かす富良野市 ZERO 運動～

富良野は美しい山々、そして豊かな森に囲まれたまちです。
その山々と大きな森は、富良野に住む人々をやさしく包んでくれます。
私たちは この豊かな自然にならい、富良野の子どもたちを育むイメージとして
「**知育の木**」「**情意の木**」「**健康の木**」の三本の木を「**学びの大地**」に植えました。
三本の木が大きく育つと、それは「自立と共生」という未来の大きな森になります。
富良野の子どもたちが未来へ大きく力を伸ばしていく象徴としての三本の木、
その三本の木が天に向かいグングンと育つため、**ZERO 運動**の肥料を与えます。
ZERO それは、主体性や自主・自律をあらわす言葉。それは、原点や輪・和をあらわす言葉。
そしてそれは、向上する姿やたくましく前進する姿をあらわす言葉です。
ZERO 運動で大きく根を張り、豊かな枝葉を誇る「**知育の木**」「**情意の木**」「**健康の木**」。
私たちは、学びの心を前に動かし、富良野の未来を拓きます。

知育の木

主体的な学びを育てる ZERO 運動



「生きる力」を育む教育課程
全国水準の学力を保障する学習指導
恵まれた環境を生かした総合的な学習の時間
英語が話せるふらのっ子
情報活用能力を高める情報教育
持続可能な社会を目指す環境教育
マスタープランを生かした特別支援教育

情意の木

自主自律の心を育てる ZERO 運動



演劇から学ぶ心の教育
地域に密着した児童・生徒会活動
いじめを許さない児童生徒の育成
富良野を誇りに思うふるさとキャリア教育

健康の木

恵まれた環境と食で育てる ZERO 運動



「早寝・早起き・朝ご飯、みんなそろって晩ごはん」
富良野ならではの地産地消を推進する食育
スキーに親しむ児童生徒の育成
市 P 連や地域と連携した防災・安全教育

学びの大地

原点を見つめ未来への輪を広げる ZERO 運動



オール富良野で取り組む学校経営
ふるさとの学びを生かしたへき地・複式教育
教育者としての自覚と実践力の向上
学校・保護者・地域住民が力を合わせる CS 制度
学びの連続性を踏まえた校種間連携

＜富良野市学校教育の推進計画＞

富良野市民憲章

- 1 明るく 健康で働くまち富良野
- 2 あたたかく みんなの幸せを願うまち富良野
- 3 大きく 未来に生きる知性のまち富良野

北海道教育の理念

その先の道を切り拓く北海道人

- 1 北海道に思いを寄せる
- 2 社会で自立し共に支え合う
- 3 未来を切り拓く

上川教育のめざす姿

確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスのとれた育成
学校、家庭、地域の連携による上川らしい教育の推進

富良野市教育目標

- 〈健康〉郷土の生活を改善し、進んで健康の保持増進に努める。
〈経済〉たくましい開拓精神と創意工夫により郷土産業の発展を図る。
〈文化〉郷土の歴史と伝統を正しく理解・継承し、北国にふさわしい生活文化の創造に努める。
〈社会〉社会の近代性を正しく把握し、住みよい都市づくりに努める。

- 〈基本理念〉自立と共生の未来を拓く
心豊かでたくましい人を育む
〈めざす姿〉ふるさと富良野に心を向け
富良野に生きる人々とともに
新たな時代を拓く学校教育の推進

＜学校教育推進の重点＞

主体的な学びを育てる ZERO 運動

知育の木

- 1 家庭・地域と連携し、確かな学力を育む教育課程
- 2 基礎・基本の定着と、主体的な学び合いのある学習指導
- 3 探究的な学び方を育む総合的な学習の時間
- 4 社会のグローバル化に対応する国際理解・外国語教育
- 5 情報活用能力を高め、主体的・共同的な学びを生かす情報教育
- 6 富良野の豊かな自然を生かした環境教育
- 7 一人一人の個性を社会につなげる特別支援教育

自主自律の心を育てる ZERO 運動

情意の木

- 1 社会でよりよく生きる基盤を育む道徳教育
- 2 自立と共生の力を育む特別活動
- 3 自らを律する心を育てる生徒指導
- 4 富良野のよさを知り、誇りをもたせるふるさとキャリア教育

恵まれた環境と食で育てる ZERO 運動

健康の木

- 1 自らの心身の健康を守る力を育む健康教育
- 2 望ましい食習慣の形成を目指す食育
- 3 たくましい心身と豊かなスポーツライフをつくる体育指導
- 4 安全・安心な生活を工夫する防災・安全教育

原点を見つめ未来への輪を広げる ZERO 運動

学びの大地

- 1 地域との揺るぎない相互信頼築く学校経営
- 2 学校や地域の特性を生かした指導
- 3 教育者としての自覚と実践力の向上
- 4 保護者・地域とともに作る豊かな学び
家庭学習への支援や CS 制度の活用
- 5 学びの連続性を踏まえた校種間連携



1 家庭・地域と連携し，確かな 学力を育む教育課程

教育課程



現状と方向性



- ◇ 各学校においては，豊かな自然や教育環境を生かした体験的な学習活動が展開されるなど，充実した教育課程が編成・実施され，成果を上げています。また，朝読書の推進，IT 指導や個別指導の実践など，指導方法や指導体制の工夫を行い，基礎基本の定着を図っています。
- 基礎・基本の徹底を図るとともに，地域の人的・物的教育資源を生かしながら，地域と連携・協働し，よりよい社会を創ることを目指した，社会に開かれた教育課程の充実を目指します。また，教育活動の質の向上を図り，学習効果を向上させるカリキュラム・マネジメントを確立します。



実践項目



1 学校や地域の特性を生かした特色ある教育課程の編成・実施

- ① 地域や学校の特性を生かし，地域の自然や文化，人材，生涯学習関連施設等を活用した教育活動を展開します。
- ② 体験的な学習の充実を図り，学ぶ楽しさを実感しながら，主体的な学習へ結びつける教育の充実を図ります。
- ③ これからの時代に必要な学習の基盤となる資質・能力（言語活動，情報活用能力，問題発見・解決能力等）の育成を図り，教科等横断的な学習を充実します。

2 基礎基本の徹底を目指した教育課程の編成・実施

- ① 各教科の教育内容の充実や読書の推進に努め，基礎基本を徹底し，確実に身に付けるための教育活動や弾力的な時間割の編成等の工夫改善に取り組みます。
- ② 児童生徒のよさや可能性を伸ばす指導方法や指導体制の工夫に努めるなど，指導の重点化を図ります。
- ③ 児童生徒の実態等を踏まえ，教育の内容や時間を配分し，授業改善や必要な人的・物的資源の確保などの創意工夫で，組織的に教育の質的向上を図ります。

3 組織的・計画的に進める教育課程の評価・改善

- ① 評価の観点や基準を明確にし，児童生徒の成長が把握できる評価の工夫・実施に努め，組織的・計画的な改善を目指します。
- ② 教育課程の編成・実施の過程において，成果や課題を明らかにし，その改善策の実践に努めます。

ZERO の視点

家庭・地域と連携した「社会に開かれた教育課程」
特色ある教育活動の展開
弾力的な学習時間の確保



現状と方向性

- ◇ 各学校においては、児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握し、基礎的・基本的な知識及び技能の習得やその活用力、主体的に取り組む態度の育成に向けて実践を進めてきています。また、学校全体で共通した学習規律を定めたり、言語活動を重視したりしながら、児童生徒が主体となって見通しをもったり、振り返ったりする学習活動を重視し、日常の授業改善を推進してきています。
- これからの子どもたちには、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性からなる真の「学力」を身に付けるための学習指導が必要であり、そのためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。また、「学習の悩み ZERO 運動」を継続し、家庭学習や読書の習慣化の確立を目指します。

実践項目

1 育成する資質・能力を明確にした指導計画の充実

- ① 「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を明確にし、「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養の三つの柱に基づいた指導計画の作成を進めます。
- ② 児童生徒や学校、地域の実態に応じて、どのような資質や能力の育成を図っていくのかを明らかにし、教科等横断的な視点で組み立て、組織的かつ計画的な教育活動の展開に努めます。
- ③ 教育内容や時間の適切な配分、各教科等の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会との連携をさらに緊密にし、指導計画の実施状況を適切に評価してその改善を図っていきます。

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導方法の充実

- ① 各教科等の通常の学習活動において、言語活動、観察・実験、問題解決的な学習などの質の向上を目指して、さらに授業改善を進めます。
- ② 児童生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、児童生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習とともに、児童生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように工夫を進めます。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えをもとに創造したりするなど「深い学び」の実現に向けて、学習・指導方法の改善に努めます。

3 一人一人のよさや可能性を伸ばすための評価の工夫

- ① 教育課程や学習・指導方法の改善と評価の一体化を図り、一貫性のある取組を組織的かつ計画的に進めます。
- ② 評価規準や評価方法を明確にするとともに、評価の場面や方法を工夫することで、児童生徒一人一人が、自分自身の目標や課題をもって学習を進めていけるように改善を図ります。

ZEROの視点

学習の悩み ZERO 運動の推進
自主的・自発的な学習態度の育成
学ぶ力を伸ばすための評価の工夫



知育の木 3 探究的な学び方を育む

総合的な学習

総合的な学習の時間



現状と方向性



- ◇ 各学校においては、地域の人的・物的資源を活用し、主体的な課題の解決や探究的な学習の過程における活動の充実に努め、成果を上げています。また、より主体的な探求活動になるよう、児童生徒の発達段階や興味・関心に応じた魅力的な体験活動を意図的・計画的に設定しています。
- 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指します。



実践項目



1 児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る指導計画の充実

- ① 児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、学校における全教育活動との関連の下に、目標及び内容、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画などを示します。
- ② 児童生徒や学校、地域の実態等に応じて、探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や、児童生徒の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした指導計画の充実を図ります。
- ③ 社会教育施設や社会教育関係団体等との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用など、多様な人的・物的資源を生かした教育活動が行えるよう努めます。

2 探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、積極的に社会に参画しようとする態度を育む指導方法の充実

- ① 情報や情報手段を主体的に選択・活用できるよう、パソコンやインターネットなどを適切かつ効果的に活用し、情報を収集・整理・発信するなどの学習活動を積極的に取り入れます。また、プログラミングを体験しながら、論理的思考力を身に付けるための学習活動を推進します。
- ② 自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れます。
- ③ グループ学習や異年齢集団による学習など、学習形態の工夫や、全教師が一体となって指導にあたるなどの指導体制の工夫など、多様な方法で指導の充実を目指します。

3 目標や内容に基づいた観点を明確にした評価の充実

- ① 学習課題や学年単位で、指導の目標や内容に基づき、評価の観点を定める等、観点別学習状況の評価の充実に努めます。
- ② 主体的な学習を促す資質・能力の多面的な評価、地域の人たちとともに行う評価など、自己肯定感の醸成につながる評価方法を工夫します。

ZERO の視点

探究的な学習活動の充実

地域の人的・物的資源の有効活用

主体的・協働的に取り組み、積極的に社会に参画しようとする態度の育成

**現状と方向性**

- ◇ 各学校では、ALT や富良野市在住外国人などを活用し、外国語や外国の文化に積極的に慣れ親しむ学習活動に取り組み、成果を上げています。また、新学習指導要領への移行期間を見据え、低・中学年の外国語交流授業や、小学校外国語活動巡回指導教諭による授業補助、教員を対象とした研修などを行い、改訂への対応を準備しています。
- 新学習指導要領の小学校外国語活動・外国語を先行実施し、外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指します。また、ALTによる指導の充実や、富良野市在住外国人などを活用し、国際理解・他文化理解教育の一層の充実に努めます。

**実践項目****1 「英語が話せるふらのっ子」を目指した指導計画の充実**

- ① 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指します。
- ② 「英語が話せるふらのっ子」事業などを通して外国語活動・外国語の充実を図るとともに、幼小中高の連携を十分に図りながら「クラスルームイングリッシュ」や英語を積極的に取り入れた言語活動等、充実した英語教育を確立します。
- ③ 新学習指導要領の小学校外国語活動・外国語を先行実施し、文部科学省作成の教材を取り入れた年間指導計画の作成等、完全実施に向けてスムーズに学習が移行できるよう教育課程を編成します。

2 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

- ① 自国や郷土の伝統・文化・歴史について学び、多様な文化や伝統をもつ人々を受け入れ、共生する態度の育成を図ります。
- ② 世界の国々の伝統や文化、地球的課題などを学び、広い視野をもって主体的に考え、自らの考えや意見を発信し、具体的に行動する態度の育成を図ります。
- ③ 研究会等への参加や地域素材の教材開発、指導法の工夫などの研修を推進し、教職員の国際理解教育に対する意識改革の充実に努めます。

3 国際理解教育の充実に生かす評価の工夫

- ① 教育情報機器を活用して外国語活動・外国語や英語教育の充実を図るとともに、英語を中心とした外国語による発信力を高める評価の工夫に努めます。
- ② 学校や地域の実態、児童生徒の発達段階に応じながら、専門家や有識者、関係機関・団体との連携協力により、国際理解教育の充実を図る評価の工夫に努めます。

ZERO の視点

外国語教育の幼小中高連携

ALT・富良野市在住の外国人の活用

教育情報機器（電子黒板、タブレット端末等）の活用



知育の木 5 情報活用能力を高め、主体的・ 共同的な学びに生かす情報教育

情報教育



現状と方向性



- ◇ 各学校では様々な場面で子どもたちがコンピュータやタブレット端末を活用した学習を進めるとともに、教員が電子黒板やデジタル教科書といった ICT を活用して授業が行われ、理解を深め、基礎・基本の定着につながるなど成果を上げています。
- 社会がグローバル化、情報化などのさまざまに変化していく中でも、子どもたちが未来の創り手として社会の変化に主体的に対応できるよう情報活用の実践力を育みます。



実践項目



1 情報活用能力を高め、主体的・共同的な学びに生かす指導計画の充実

- ① 各教科等において、コンピュータや情報通信ネットワークを活用した学習活動を通して、育成すべき資質・能力を明確にした全体計画を作成します。
- ② 論理的に思考することを目指したプログラミング教育の位置付けを明確にし、教育活動全体で体系化した指導体制の確立を目指します。
- ③ 各学校の特色を生かしながら、「情報の収集・情報の表現」にとどまらない、一步進んだ学習場面での活用をさぐり教育課程の充実に努めます。

2 主体的・共同的な学びによる、未来の創造をめざした指導の充実

- ① 授業内容や子どもの姿に応じて、教員自身が自在に ICT を活用しながら授業設計を行えるよう研修を深め、指導に生かします。
- ② 子どもたちが情報を適切に扱うための理論や方法を身に付けるだけでなく、情報技術の役割、影響、情報モラルなどを身に付け、望ましい情報社会の創造に積極的に参画する態度を育てます。
- ③ 未来社会を見据えて、主体的に問題を捉え、共同的な学びによってよりよい理解を求めるための「学びの場」を形成するために ICT を効果的に活用していきます。

3 情報教育の改善に生かす評価の工夫

- ① ICT を活用することで、チーム学校の経営力を高め、教育の質の向上と教職員が子どもと向き合う時間的、精神的余裕の確保に努めます。
- ② 教育 ICT 教材整備指針のもと、学校 ICT 環境の整備を進めるとともに、情報機器を適切に活用した学習活動の充実に努めます。

ZERO の視点

ICT 環境を生かす活動
情報を主体的に活用する力
家庭や地域、専門の機関との連携



知育の木 6 富良野の豊かな自然を 生かした環境教育

環境教育



現状と方向性



- ◇ 各学校では、豊かな自然環境や地域の人材を活用したさまざまな特色ある実践がなされているほか、地域と連携した体験的な活動に取り組み、成果を上げています。
- 各教科及び領域等の目標や内容を、私たちの生活が恵まれた自然環境の上に成り立っていることを実感し、私たちの活動による負荷が、環境に大きな影響を与えていることを理解し、問題の本質や取組の方法を自ら考え解決する能力を身に付けるだけでなく、行動に結び付けるという環境教育の視点で捉え、指導にあたることで次代を担う人材の育成を図ります。



実践項目



1 富良野の豊かな自然を生かした指導計画の充実

- ① 各教科及び領域等の目標や内容を環境教育の視点で捉えなおし、育成すべき資質・能力を明確にした全体計画を作成します。
- ② 教育課程における位置付けや日常の教育活動との結びつきを明確にし、教育活動全体で体系化した指導体制の確立をより一層目指します。
- ③ 富良野自然塾や太陽光発電・完全リサイクル等の富良野市の自然環境や施設を生かした活動、清掃活動や自然愛護活動など、学校や地域の特色を生かした教育課程の充実に努めます。

2 環境保全に主体的に関わり、未来を創る力を育てる指導の充実

- ① 身近な環境問題に対する興味・関心を高め、よりよい環境の創造に主体的に関わる態度を育てるため、具体的な活動や体験を重視した指導の充実に努めます。
- ② 地球規模の環境問題、エネルギー問題などの解決に主体的に取り組む態度を育てる指導について一層の推進を図ります。
- ③ 研究会等への参加、地域環境の教材化や指導法の学習など環境に関わる研修の充実に努めます。

3 地域との連携を図った評価の充実

- ① 学校や地域の実態、児童生徒の発達段階に応じながら、専門家や有識者、関係機関と連携し、評価の充実に努めます。
- ② 家庭や地域社会と連携し、実践力の向上につながる評価の工夫に努めます。
- ③ コミュニティ・スクール制度の導入により、保護者や地域住民の参画と支援のもと、より効果的な学校種間の連携を推進します。

ZERO の視点

富良野の自然環境や施設を生かす活動
環境を主体的に活用する力
家庭や地域との連携

 現状と方向性

- ◇ 各学校においては、校内支援委員会を設置し、特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制の充実に努めてきています。また、「富良野市特別支援教育マスタープラン」を生かし、個別の教育支援計画「すくらむ ふらの」と個別の指導計画を作成し、家庭との日常的な連携はもとより、関係各機関との連携を強化し、生活経験や障がいの状態、児童生徒一人一人の特性に応じた指導の工夫に努め、成果を上げてきています。
- 富良野市特別支援連携協議会を中核とし、幼・保小中高間の連携と協働体制をより一層充実することで、児童生徒一人一人の困り感を的確に把握し、合理的配慮をもとに相談・支援体制を推進します。

 実践項目

1 一人一人の個性に応じた指導計画と支援体制

- ① 児童生徒一人一人の障がいの種類や程度を的確に把握し、「困難さ」を理解した上で、個に応じた様々な「手立て」を検討し、個別の教育支援計画「すくらむ ふらの」と個別の指導計画の一層の充実を図ります。
- ② 富良野市特別支援連携協議会や特別支援教育アドバイザー、特別支援学校や関係各機関との連携を一層強化し、特別支援教育コーディネーターを中心に、児童生徒の個性に応じた支援体制を充実し、就学前から学齢期、社会参加までの切れ目のない支援体制の整備に努めます。

2 一人一人のニーズに応じた指導の充実

- ① 校内の全教師が、児童生徒一人一人の障がいの種類や程度、「困難さ」などを共通理解し、連携を図りながら指導を進めるとともに、特別支援教育に関する知識を高めることを目指し、専門性・指導力の更なる向上を図ります。
- ② 一人一人の特性に応じた適切な指導や支援・配慮を充実し、児童生徒の能力を伸ばし可能性を開花させるため、効果的な「自立活動」を行い、組織的かつ計画的な指導に努めます。
- ③ 自校だけではなく、富良野市教育研究会特別支援教育班とも連携し、交流および共同学習を通じて相互理解を深め、社会性や望ましい人間関係を培う指導を進めます。

3 一人一人の確かな成長をとらえる評価の工夫

- ① 児童生徒一人一人の障がいの種類や程度、「困難さ」を把握し、指導内容や指導方法とともに、客観的な評価の工夫と充実に努めます。
- ② 家庭との連携、協力体制を緊密にし、一人一人の成長につながる評価の改善を進めます。

ZEROの視点

「困り感」ZERO 運動の推進
家庭や関係各機関との連携
交流および共同学習の充実

情意の木 1 社会でよりよく生きる基盤を 育む道徳教育

道徳教育

現状と方向性

- ◇ 各学校では、各教科、特別活動、総合的な学習の時間や行事と関連を図った道徳の年間指導計画や別葉を作成し、学校のあらゆる教育活動を通じて、道徳的实践力を高める指導の充実に努めています。また、地域の人材、自然体験および教育施設の積極的な活用など、地域の教育力を生かした豊かな体験活動と参観日などを利用して、家庭や地域との連携を図る取組を充実させています。
- 道徳教育推進教師が中心となって、「特別の教科 道徳」の指導と評価、魅力的な教材の開発、実践活動や体験活動の推進に努めます。また、「富良野市ZERO運動」を積極的に推進し、社会でよりよく生きていくために求められる資質・能力を育成します。

実践項目

1 学校や児童生徒の実態に応じた指導計画の工夫と指導体制の充実

- ① 各教科等における道徳教育にかかわるもの、体験活動や実践活動の時期等を整理したもの、家庭・地域との連携等が分かるものを別葉にして加えるなど道徳教育の全体計画の充実に努めます。
- ② 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、児童生徒、学校、地域の実態に応じ、重点的な指導や内容項目の関連を図った指導計画の充実に努めます。
- ③ 道徳教育推進教師が中心となって、学級間、学年間、校務分掌間の連携を図るとともに、家庭や地域社会と一体となって道徳性を高める指導体制の充実に努めます。

2 道徳的实践力と道徳性を高める指導の充実

- ① 児童生徒の実態や興味・関心に応じた資料や「教科書」「はあと・ふる」、富良野にゆかりのある講師の活用等による「メセナ事業」や「心に響く道徳教育」の充実に努めます。
- ② 一方的な価値観の押しつけや単なる生活経験の話し合いなどに終始することのないように留意し、発問など効果的な指導方法の明確化と指導内容の充実に努めます。
- ③ 演劇活動、ボランティア活動や自然体験活動などを通して、チーム・ティーチング、保護者や地域の人々の参加協力による指導の工夫に努めます。

3 道徳教育の指導の改善に生かす評価の工夫

- ① 全教育活動を通して、道徳教育推進教師を中心に全体計画、年間指導計画、学級における指導計画や指導体制等についての見直し、修正を継続して行い、組織的、計画的な評価の一層の充実に図ります。
- ② 児童生徒の学習状況や道徳性にかかわる成長の様子を継続的に把握し、適切に評価できるようにするとともに、指導方法の改善に生かす工夫に努めます。

ZERO の視点

特別の教科 道徳の実施
道徳教育推進教師の活用
心に響く道徳教育

現状と方向性

- ◇ 各学校では、富良野の豊かな自然と恵まれた環境の中、自然体験や社会体験の実践が進み、成果を上げています。
- 富良野への愛情と誇りをもち、社会の一員として互いに尊重し、ともに支え合う視点から、教科や各領域との関連を図り、豊かな心や創造性の涵養を目指した自主的、実践的な活動のより一層の充実に努めていきます。

実践項目

1 創意ある全体計画や発達段階に応じた指導計画の充実

- ① 学校課題や重点目標を考慮し、各教科、道徳、総合的な学習の時間との関連を図った創意ある全体計画の充実に努めます。
- ② 指導内容と発達段階を考慮し、適切な指導時数のもと、ねらいを明確にした年間指導計画の充実に図ります。
- ③ 富良野の豊かな自然や社会教育施設等の教育環境を積極的に生かすなど、家庭や地域社会との連携に努めます。

2 学級活動、児童生徒会、クラブ、学校行事の特質に応じた指導の充実

- ① 集団や社会の一員として、児童生徒がよりよい学級や学校生活、地域社会の形成を目指して諸課題の解決に取り組む「子ども未来づくりフォーラム」や「少年の主張大会」等に積極的に参加します。
- ② 望ましい集団活動を通して、児童生徒の自主的、自発的な活動が促されるよう、地域に根ざした「ボランティア活動」などの指導の工夫に努め、一層の充実に図ります。
- ③ 学校教育コミュニケーション教育推進事業や演劇活動を通して児童生徒の自主性や表現力・コミュニケーション能力を育成するなど、富良野の文化を生かした豊かな体験の充実に図ります。

3 特別活動の指導の改善に生かす評価の工夫

- ① 教育的効果の観点から、それぞれの活動を見直し、全体計画や年間指導計画の改善に生かす評価の充実に図ります。
- ② 教員相互の情報交流や自己評価を通して、児童生徒や集団の変容を多面的に把握し、資質・能力の育成につながる評価方法の工夫に努めます。

ZERO の視点

自主的・実践的な活動
自然体験や社会体験の充実
演劇教育の推進

現状と方向性

- ◇ 各学校では、学校や地域の実態を踏まえ、共感的な人間関係のもと、現在及び将来における自己実現を図るため、自己選択・自己決定の場を重視した積極的な生徒指導を推進し、成果を上げています。
- 家庭や地域社会及びいじめ問題対策連絡協議会等、関係機関との連携・協力を密にし、生徒指導、教育相談の一層の充実を図るとともに、いじめなどの問題行動や発達段階に応じた情報機器の適切な使用の啓発、不登校の未然防止・早期発見・早期対応に努めます。

実践項目

1 全体計画の作成と協働体制の確立

- ① 教職員の共通理解を図りながら、生徒指導の全体計画や個々の事例研修に努めます。
- ② いじめアンケートを有効に活用し、児童生徒の悩みや問題行動を早期に発見し、いじめ対策委員会を中心として、迅速に対応します。
- ③ 家族の約束7か条など家庭や地域への指導方針の啓発に努めるとともに、情報モラル教育の徹底など関係機関との連携を強化し、ケータイ安全教室の実施など、メディアリテラシーの育成を目指した協働体制の充実を図ります。

2 共感的な理解に基づく児童生徒理解と積極的な生徒指導の充実

- ① 児童生徒理解を深める多面的な資料の収集、整理を継続的に行い、個に応じた指導の充実に努めます。
- ② 富良野の教育環境を生かした活動やボランティア活動など豊かな体験を取り入れた指導を一層推進します。
- ③ 家庭や地域社会と連携して、いじめZEROを目指すとともに児童生徒の自主的、自律的な生活態度の育成を図る指導の充実に努めます。

3 生徒指導の充実に生かす評価の工夫

- ① 計画や指導体制、児童生徒の変容を組織的・計画的に行う評価を実施するとともに、保護者や地域住民等とともに評価の工夫改善に努めます。
- ② 事例研究等の研修を通して、自校の生徒指導に関する課題を再確認するとともに、日常の生徒指導や児童生徒理解の在り方の改善に努めます。また、日常生活や問題行動を記録化し、児童生徒の育ちの姿を捉える評価の充実に努めます。

ZERO の視点

いじめ ZERO 基本方針の推進

いじめアンケートの活用

メディアリテラシーの育成



情意の木 4 富良野の良さを知り、誇りを

もたせるふるさとキャリア教育

ふるさと キャリア教育



現状と方向性



- ◇ 「ZERO 運動」との連携を図り、児童生徒が将来に夢や希望をもち、日常の学校生活や学習に自主的に取り組むよう、キャリア教育の充実に努め、年間計画や指導体制について組織的・計画的に評価を実践、改善し成果を上げています。
- 地域のよさを知り、地域に誇りをもてるように、幼小中高において地域全体を学び場として地域と連携した様々な教育活動を進め、「ふるさとキャリア教育」によって将来の地域を担う人材を育て、地域を活性化する「地学地就」を目指すことが重要となります。



実践項目



1 「マイノート」を活用した指導計画・指導体制の確立

- ① 市内各学校がキャリア教育全体計画の統一を図り、成長の記録である「マイノート」を活用することにより、校種間連携を深め、富良野市全体として一貫したキャリア教育の推進に努めます。
- ② 小中高一貫ふるさとキャリア教育の成果をもとに、市内小中高が一貫した「ふるさとキャリア教育」を推進するために、キャリア教育の目標および全体計画の様式・マイノートの書式統一に取り組みます。

2 ふるさと富良野に対する理解を深め、関心を高める工夫

- ① ふるさと富良野の恵まれた自然や森林資源を活用した環境学習の充実に努めます。
- ② 演劇のまち富良野を体感し、演劇的手法を活用したコミュニケーション能力の向上を図ります。
- ③ 富良野を訪れる海外の観光客を含め、「英語が話せるふらのっ子」を目指して外国語活動に積極的に取り組みます。
- ④ 地域の課題解決に向けた方策を自ら考え、発表することを通じて、郷土への理解・愛情そして将来のまちの担い手を育て「子ども未来づくりフォーラム」への積極的な取組を図ります。

3 キャリア教育の改善に生かす評価の工夫

- ① マイノートを活用して学習や活動の様子を記録し、変容を把握・評価するとともに、一人一人の指導や支援の充実に努めます。
- ② 全体計画、指導計画や指導体制について、組織的・計画的に評価し、次年度の教育課程や指導改善に生かすなど、一層の充実に努めます。

ZERO の視点

マイノートの活用推進のための工夫
校種間の接続
「ふるさと富良野」への理解と関心



健康の木 1 自らの心身の健康を守る力を 育む健康教育

健康教育



現状と方向性



- ◇ 各学校においては、各教科や特別活動などの学校教育活動全体を通じた健康教育の充実に努めるとともに、家庭や地域の関係機関と連携した組織的・計画的な性教育、薬物乱用防止教室を推進し、成果を上げています。
- 児童生徒が心身の健康の保持増進に主体的に取り組むことができるように、健康教育の充実に努めます。また、校内における健康相談体制の充実を図るため、関係機関との連携を更に推進します。



実践項目



1 健康の保持増進を図る指導計画の充実

- ① 児童生徒や地域の実態に基づき、健康に関する指導及び学校保健計画の充実に努めます。
- ② 家庭や地域、関係機関との共通理解を深め、児童生徒の発達段階に応じた組織的・計画的な性教育や薬物乱用防止教室の一層の充実を図ります。
- ③ 警察や医療機関等の関係機関と連携し、特色ある教育課程を編成します。

2 健康で安全な生活を営む態度を育てる指導の充実

- ① 健康に関する基礎的・基本的な知識を高めるため、各教科や特別活動など学校教育全体を通じた学習指導改善を図ります。
- ② 「早寝・早起・朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」を合言葉に、規則的な生活習慣を身に付け、心身の保持増進に主体的に取り組む態度を育成します。
- ③ 養護教諭による相談活動の充実など、校内における健康相談体制の整備を図るとともに、家庭や地域、警察や医療機関等と連携し、歯の健康（虫歯予防）づくり、薬物の有害性・危険性、性に関する正しい知識等を身に付け、適切な判断や行動ができる資質・能力を育成します。

3 健康教育の改善に生かす評価の工夫

- ① 健康に関する全体計画、年間指導計画及び指導体制の改善に生かす組織的、計画的な評価の充実に努めます。
- ② 家庭や関係機関と連携を図った児童生徒の経過や実態を把握し、指導方法の改善に向けた評価の工夫に努めます。

ZERO の視点

性教育、薬物乱用防止教育の推進
望ましい生活習慣の育成
関係機関と連携した健康教育の推進



健康の木 2 望ましい食習慣の形成を 目指す食育

食育



現状と方向性



- ◇ 各学校では、子どもたちの食生活の乱れなどの問題に対し、毎日の給食指導や栄養教諭による出張授業など、更なる食育の充実を図っています。
- 家庭との連携を図り、子どもたちに望ましい食習慣を身に付けさせるとともに、食の楽しさ・大切さに気付かせ、会食を通じたよりよい人間関係の醸成を目指します。



実践項目



1 望ましい食習慣の育成を図る指導計画の充実

- ① 児童生徒の発達段階に応じた食育に関する指導の全体計画の充実に努めます。
- ② 給食時間をはじめ、教育活動全体を通して、望ましい食習慣の育成を図る指導計画を充実します。
- ③ 地域、PTAや食に関わる専門家等と連携しながら、児童生徒の食生活改善に向けた協働体制の確立を図ります。

2 学校・家庭・地域が連携した地域に根ざした食育の推進

- ① 各種通信、給食だよりや献立表を活用し、家庭に対して望ましい食習慣の啓発を行います。
- ② 安全で豊かな食の推進に向け、ふるさと給食を通して地産地消の意識を高めます。
- ③ 地域の資源を活用しながら、野菜の栽培活動や収穫祭等の実食活動を積極的に推進し、食べ物に対する感謝の心を醸成します。

3 自ら健康管理ができる力を育成する評価の工夫

- ① 児童生徒一人一人の食に関する知識と自らの健康を管理する力を適切に判断できる自己評価の工夫に努めます。
- ② 栄養教諭や学校給食センターと連携し、給食指導の改善を図る評価の工夫に努めます。

ZERO の視点

栄養教諭の効果的な活用
ふるさと給食を通じた地産地消の意識付け
地域と連携した栽培活動の推進



健康の木 3 たくましい心身と豊かな

スポーツライフをつくる体育指導

体育指導



現状と方向性



- ◇ 外遊びやスポーツなどを通じた体を動かす機会が減少し、子どもたちの体力が減少する中、各学校では、保護者や地域と連携して体力・運動能力の向上に努め、成果を上げています。
- 富良野の自然や環境および地域人材を生かしたスポーツの振興に努め、体育の授業などにおいて小・中との連携を図った取組を推進し、たくましい心身と豊かなスポーツライフの向上を目指します。



実践項目



1 たくましい心身を培う指導計画の充実

- ① 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果や新体力テストの児童生徒の実態に基づき、富良野の自然や環境を生かした全体計画の充実に努めます。
- ② 小・中学校の体育・保健体育の領域構成と学習内容の系統性を考慮し、小・中学校の一層の連携を図るとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通し、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る年間指導計画の充実に努めます。
- ③ 地域指導者やスポーツ団体等を積極的に活用し、組織的・体系的な指導体制の充実に努めます。

2 生涯にわたるスポーツに親しむ資質・能力を向上させる指導の充実

- ① 生涯にわたって豊かなスポーツライフの基盤を培うため、学校教育全体で体育指導の改善を図り児童生徒の運動に親しむ資質・能力を育成します。
- ② アルペンスキーやクロスカントリースキーなど、生涯スポーツに親しむ機会の一層の充実に努めます。
- ③ 児童生徒がスポーツの楽しさや喜びを味わえるよう、教員の指導力の向上やスポーツ指導者の積極的な活用等による体育・保健体育の授業の充実、運動部活動の活性化を図ります。

3 体育指導の改善に生かす評価の工夫

- ① 体力の向上と豊かなスポーツライフの観点を重視し、全体計画・指導計画及び指導体制・指導方法の工夫・改善に生かす評価の充実に努めます。
- ② 運動や健康についての学習成果を的確に把握、評価できるよう、学習過程に評価場面を適切に位置付けるとともに、児童生徒が次の学習に生かすための資質・能力の多面的な評価の充実に努めます。

ZERO の視点

生涯にわたる豊かなスポーツライフ
地域環境・地域指導者の活用
小・中との連携を図った指導の充実



健康の木 4 安全・安心な生活を

工夫する防災・安全教育

防災・安全教育



現状と方向性



- ◇ 富良野市においては、市P連との連携や各学校における見守り隊等の活動など、PTA や関係機関と連携を図った安全指導が成果を上げています。
- 地震や水害など様々な災害を想定した防災訓練を実施するなど、自ら安全に行動し、地域とともに他人や社会の安全に貢献できる資質・能力の育成を目指した防災教育の一層の充実を図ります。



実践項目



1 安全の保持増進を図る指導計画・体制の充実

- ① 全教職員が学校安全の重要性を認識し、児童生徒や地域の実態に基づく学校安全計画の一層の充実に努めます。
- ② 各教科との関連を図った学年別・月別の安全教育や安全管理に関する年間指導計画の充実に努めます。
- ③ 家庭や地域の関係機関との連携を図った安全指導（見守り隊等）をさらに充実させる指導体制の推進に努めます。

2 安全の確保と危機対応能力の育成を図る取組

- ① 市P連や警察等の関係機関と連携を図りながら、子ども110番の家や見守り指導等の安全教育を更に推進します。
- ② 消防署や関係機関と連携し、避難訓練・救急救命講習等、地域とともに学ぶ防災教育の充実を図ります。
- ③ 学校独自の安全マップや危機管理マニュアルを見直し、学校の危機管理体制の一層の充実に努めます。

3 安全指導の改善に生かす評価の工夫

- ① 安全指導の全体計画、年間指導計画及び指導体制の改善に生かす評価の充実に努めます。
- ② 安全・安心に学ぶことのできる居場所（サードプレイス）づくりに向けた地域の人たちとともに行う評価等、自己肯定感を育む評価の工夫改善に努めます。

ZERO の視点

安全指導の充実（見守り隊等）
地域とともに学ぶ防災教育の充実
危機管理マニュアルの一層の充実



1 地域と揺るぎない相互 信頼を築く学校経営

学校経営



現状と課題

- ◇ 各学校においては、豊かな自然と恵まれた環境の中で、学校と地域の実態を踏まえた経営方針や経営の重点を明確にした学校経営計画を作成するとともに、家庭や地域と連携を図る「地域とともにある学校」づくりを推進し、成果を上げています。
- 富良野市学校教育中期計画に則った学校経営計画を策定し、オール富良野で取り組む学校経営を推進するとともに、学びの連続性を意識し、コミュニティ・スクール（CS）協議会の充実と幼小中高の情報交換や指導体制を確立し、校種間の円滑な接続に向けた取組を推進します。



観点と実践項目

1 地域に根ざし、地域の信頼を得る学校経営の充実

- ① 家庭・地域の実態や社会の変化等を踏まえ、学校経営の方針や重点を明確にし、地域住民との連携・協働を含めた学校経営の改善を図り、その達成の道筋を示した学校経営計画の一層の充実に努めます。
- ② 学校経営方針等の共通理解、授業公開、地域活動への積極的参加など、CS協議会として家庭や地域社会との連携を図り、幼小中高の接続に配慮した地域とともにある学校の推進に努めます。
- ③ 富良野の豊かな自然や歴史・伝統・文化など、地域の豊かな教育環境のもと、幅広い地域住民等の参画を得て行う「地域学校協働活動」を一層推進します。

2 経営参画意識を高め、学校の活性化を目指す組織体制の確立

- ① 校長のリーダーシップのもと、学校マネジメントの確立を通じて組織力を強化し、協働して教育目標や年度の重点目標の達成を目指す「チーム学校」の充実に努めます。
- ② 学校の教育目標の具現化や今日的な教育課題の解決を図り、教職員の資質・能力の向上を目指す充実した研修活動の推進に努めます。
- ③ 教職員の危機管理意識を高め、緊急な課題に対し、弾力的・機動的な校内体制の確立や危機管理マニュアルの更なる充実に努めます。

3 学校経営の改善に向けた学校評価の工夫

- ① 評価の内容や方法を明確にし、組織的・計画的に教職員の意識向上を目指す自己評価や学校関係者評価の一層の充実に努めるとともに、CS協議会や第三者評価委員会の意見を学校改善に生かします。
- ② 学びの連続性をおさえ、地域に開かれた学校評価となるよう努めます。
- ③ 評価結果の的確な分析・考察を行い、幼小中高で情報を共有しながら協働で解決に臨む体制の確立に努めます。

ZERO の視点

富良野市ZERO運動の推進
地域に開かれた学校評価
校種間の円滑な接続



2 学校や地域の特長を生かした指導

複式教育・ 少人数指導



現状と課題



- ◇ へき地・複式校においては、地域ならではの教育資源を活かした体験活動を進めるなど、特色のある教育活動を展開し、成果を上げています。またタブレット端末等の ICT 機器を活用し、児童生徒の学ぶ意欲と学力を伸ばす学習活動を工夫し、成果を上げています。
- 個に応じ、個々の特性を伸ばす指導の徹底を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組を進めます。



観点と実践項目



1 少人数の特性を生かした指導計画の充実

- ① 地域の教育環境や人材の積極的な活用を図り、地域に根ざした特色のある教育活動の推進を目指します。
- ② 学年や個人差に配慮し、一人一人の個性や特性、能力を生かす指導計画の一層の充実を図ります。
- ③ 集合学習・合同学習等、多様な学習形態を工夫し、指導の充実に努めます。

2 児童生徒の学ぶ意欲と力を伸ばす学習指導の工夫

- ① 地域の自然、生涯学習関連施設の活用や外部講師の積極的な活用等、学習への興味・関心と意欲の向上を図る工夫に努めます。
- ② 学び方を身につけ、主体的な学習へ結びつける「直接指導」や「間接指導」の充実を図ります。
- ③ 学習への関心・意欲を喚起し、能力を更に伸ばすため、学ぶ楽しさを実感させ、積極的な学習へつなげる指導の充実を一層図ります。

3 一人一人を生かす多様な評価方法の充実

- ① 複数の教職員で多面的に評価するなど少人数の特性を生かした評価の計画や方法を工夫し、学習状況を具体的に把握して事後の指導に生かすなど、指導と評価の一体化を図ります。
- ② 評価の観点を明確にし、個人の学習記録や学習カルテなど、個に応じた評価を進め、一人一人のよさや可能性を伸ばします。
- ③ 児童生徒が自身の理解度や到達度を把握でき、主体的な学びを促す評価を工夫し自己肯定感の醸成に努めます。

ZERO の視点

一人一人の特性を生かす教育
地域と連携・協働した教育活動
直接指導と間接指導の充実



3 教育者としての自覚と 実践力の向上

教育者としての 資質の向上



現状と課題

- ◇ 各学校では、個々の指導力向上に視点を置いた校内研修を推進し、学力の向上に成果を上げています。また、教師が、実践的指導力を高め、児童生徒の問題解決力を育成する授業力を向上させ、全ての児童生徒の可能性を信じ、その存在的な能力を引き出す営みを通じて、児童生徒の心に火を点し、高い志とともに自己肯定感を醸成していく授業づくりを推進しています。
- 教師個々の実践力向上を実現し、意欲的で常に磨き合う教師集団になるとともに、法令・服務規律の遵守を徹底し、信頼される学校づくりを目指します。



観点と実践項目

1 教職員の意欲・専門性・人間性を高める取組

- ① キャリアステージに応じて標準的に習得することが求められる能力を明示し、あわせて、能力形成の状況を的確に把握するため、教員評価の充実に努めます。
- ② 広い視野に立った研修や社会体験を推奨し、教職員一人一人の意識改革と人間性の向上に向けた取組の充実に努めます。
- ③ 富良野GROUPと連携した研修会や各種研修会を実施し、教育公務員としての規範意識、豊かな人間性や資質・能力の育成に取り組みます。

2 児童生徒の変容や成長をみとる校内研修の充実

- ① 児童生徒同士で学び合ったりする学習活動を一層充実させる等、地域の特色や新たな発想に基づく創意に富んだ教育活動を展開できるようにします。
- ② 児童生徒の深い思考力等を育むため、課題解決に向けた主体的・対話的で深い学びへと授業を革新する研修を充実させます。
- ③ 意見発表、討論・話し合い、課題学習、事例研究、ボランティア、インターンシップ、実践と失敗を経験する体験活動などの学習・指導方法を積極的に導入した授業研究に努めます。

3 これからの時代の教員に求められる実践力の向上

- ① 「チーム学校」の施策のもと、多様な専門性をもつ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に努めます。また、自律的に学ぶ姿勢をもち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質・能力を生涯にわたって高め続ける意識の向上に努めます。
- ② 特別の教科道徳や小学校外国語・外国語活動の指導、主体的・対話的で深い学びや効果的なICTの活用等の指導方法の改善、特別な支援を必要とする児童生徒等へのきめ細かな対応、地域と連携した学校運営などの新たな課題に対応できる力の育成を図ります。

ZERO の視点

富良野GROUPと連携
教職員の信用失墜行為の根絶
新たな教育的課題に対応できる教師力の育成



4 保護者・地域とともに作る豊かな学び

家庭学習への支援やCS制度の活用

家庭の 教育力の充実



現状と課題

- ◇ 各学校においては、「家庭学習の手引」を作成し、保護者との連携を図りながら、児童生徒が主体的に学習習慣を確立するよう取り組んでいます。また、多様な専門性をもつ地域人材を活用した教育活動を展開し、成果を上げています。
- コミュニティ・スクール（CS）制度を活用し、保護者や地域の人々と児童生徒の実態、目標やビジョンを共有し、一体となって児童生徒の豊かな学びを育む教育活動を推進します。



観点と実践項目

1 保護者と連携した家庭学習の充実

- ① 「なぜ、そうなのか」という疑問をもつことから始まり、発見した課題に対応するため、知識・技能を駆使して、失敗を恐れず積極的に実践し、失敗から原因を分析して次につなげる経験を積んでいく学習を展開するため、保護者との連携を深め、家庭学習のより一層の充実に努めます。
- ② 児童生徒の「分かった」「できた」という喜びの声が聞こえ、「がんばるぞ」というやる気に満ちた姿が見えるよう「家庭学習の手引」を改善します。
- ③ 児童生徒質問紙調査等の結果から、過半数の児童生徒が家庭で過ごす時間の2時間以上をテレビやゲームに充てていることから、家庭学習の時間確保について家庭でも積極的に関わっていただけるよう工夫します。

2 コミュニティ・スクール制度を活用した豊かな学びを育てる取組

- ① 学校、保護者、地域住民による三位一体の体制を構築し、相互に教育力を高め、子どもたちの豊かな学びを支える質の高い教育の実現や諸課題の解決に努めます。
- ② 学校から情報を適切に発信し、双方向のコミュニケーションの充実を図るとともに、地域の教育力を積極的に取り入れ、ともに活動する場、学ぶ場の設定に努めます。
- ③ 学校行事や地域行事などの相互参画により、児童生徒が成長できる活動を保護者・地域と協働で作り上げることに努めます。

3 保護者や地域との連携に生かす評価の工夫

- ① 家庭学習の時間の確保と質の向上を目指し、保護者の声を生かした評価の工夫改善に努めます。
- ② 学校運営協議会と連携し、保護者や地域住民とともに行う評価の工夫改善に努めます。

ZERO の視点

家庭学習の充実

コミュニティ・スクール制度の活用

保護者や地域との連携・協働



5 学びの連続性を踏まえた 校種間連携

校種間連携・ 一貫教育の充実



現状と課題



- ◇ 各学校においては、地域間での幼保・小、小・中での交流学习、乗り入れ授業や出前授業の実施、合同研修会の開催等、異校種間連携が成果を上げています。
- 幼保・小、小・中、中・高といった各校種間の学びの連続性を踏まえ、幼保小中高間の情報交流や連携体制を確立し、円滑な接続に向けた取組を更に推進します。



観点と実践項目



1 学びの連続性を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施

- ① 子どもの発達段階と学習の系統性・発展性を踏まえるとともに、地域の学校として児童生徒を育むことを目指し、幼保小中高の連携・協力を更に進めます。
- ② 地域の学校として、9年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程を編成し、小中で一貫性をもたせた指導方針と指導体制のもとで特色ある教育活動を進めます。

2 校種間連携・一貫教育の充実を目指す指導の充実

- ① 小学校で活用した「マイノート」「体力手帳」等を中学校に引き継ぎ、計画的・系統的にステップアップが図られるよう、指導の充実に生かします。
- ② 小中連携による教職員の合同研修会を通し、育成を目指す資質・能力を明確化・共有化しながら、学びの充実を図ります。
- ③ コミュニティ・スクール制度の導入の促進により、保護者や地域住民の参画と支援のもと、より効果的な校種間連携を推進する。

3 校種間連携・一貫教育の充実に生かす評価の工夫

- ① 地域に開かれた学校評価を推進し、地域社会と成果と課題を共有しながら充実を図ります。
- ② 評価結果の的確な分析・考察を通じ、具体的な改善策を見出すよう努めます。

ZERO の視点

発達の連続性を踏まえた異校種間の円滑な接続
「マイノート」「体力手帳」等データの共有を通じた小中連携の充実
コミュニティ・スクール制度を生かした効果的な連携

学校教育中期計画策定に向けて（教育基本法改正以降）

教育基本法の主旨を踏まえ、学校教育法を始めとする法令の改正が実施された。それに伴い、特殊教育から特別支援教育への転換、また学校経営に係る新たな職や人事管理、教育行政に係る新たな施策が相次いで打ち出された。

平成18年

教育基本法〔改正〕

普遍的理念は継承しつつ、公共の精神や規範意識、それらを醸成してきた日本の伝統・文化の尊重等を重視

学校教育法〔改正〕

特殊教育から特別支援教育への転換

平成19年

学校教育法〔改正〕

各校種における目標・目的の見直し、副校長等の新たな職の設置、また学校評価と情報提供に関する規定の整備等

教育職員免許法・教育公務員特例法〔改正〕

教職免許更新制や分限免職者の免許状の取扱（免許法）、および指導が不適切な教員に関する人事管理の明確化（特例法）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律〔改正〕

教育委員会の責任体制や教育における地方分権等

第1次中期計画（平成20年度～平成24年度）

学習指導要領が改正され、社会の変化に対応する「生きる力」の育成が謳われた。そのために、異校種間の円滑な接続や学校評価の充実を通じた「信頼される学校づくり」が重視されることとなり、以後の教育改革へとつながる基盤が作られた。

平成20年

学校評価ガイドライン〔改訂〕

保護者による評価と三者（学校・家庭・地域）の連携協力の強化、評価結果の設置者への報告義務

小・中学校学習指導要領〔告示〕

「生きる力」の理念を踏まえ、知識基盤社会や国際的な学力観に立った児童・生徒の育成に主体的に課題を解決する資質能力・豊かな人間性・たくましく生きる健康や体力の育成

教育振興基本計画について―「教育立国」の実現に向けて〔閣議決定〕

平成30年までに目指す教育の姿と、当初の5年間で総合的・計画的に取り組むべき施策の公表

平成21年  高等学校・特別支援学校学習指導要領〔告示〕

平成22年  生徒指導提要〔発刊〕

▶▶ 異校種間の共通理解と、小学校～高等学校までを見越した組織的・体系的な生徒指導を推進する基本の提示

 学校評価ガイドライン〔改訂〕

▶▶ 学校評価の充実に向け、従来の自己評価・関係者評価に第三者評価を導入

平成23年  小学校（含、特別支援学校小学部）学習指導要領〔完全実施〕

▶▶ 知・徳・体をバランスよく育み、生きる力を一層確かなものとする指針の明示

平成24年  中学校（含、特別支援学校中学部）学習指導要領〔完全実施〕

 社会の期待に応える教育改革の推進〔公表〕

▶▶ 産業・就労構造の変化やグローバル化など社会の構造的変化に整合した教育の推進、また、異校種間（幼・保～大）の円滑な接続等、以後の教育改革の基本的視点の提示

第2次中期計画（平成25年度～平成29年度）

「ゆとり教育」からの方針転換に始まり、新学習指導要領では将来の社会を担うために必要な資質・能力の確実な育成が謳われた。その中核となる「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた「カリキュラムマネジメント」や「チーム学校」「学校運営協議会」等、「生きる力」の確かな育成に向け、新たな施策の数々が提示された。

こうした動向を踏まえ、国においては、現在、2022年度までを見越した「第3期教育振興基本計画」が閣議で審議されている。

平成25年  第2期教育振興基本計画〔閣議決定〕

▶▶ 社会を生き抜く力をもち、将来的に社会の各分野を牽引する人材の育成を通じ社会が人を育み、人が社会をつくる好循環を作ることの提示

平成26年  道徳に係る教育課程の改善等について〔答申〕

▶▶ 「特別の教科 道徳」としての教育課程への位置付けや、検定教科書の導入、数値での評価を行わないことが答申

 地方教育行政の組織および運営に関する法律・社会教育法〔改正〕

▶▶ 教育委員会による「学校運営協議会」設置（CS導入）の努力義務化（地教行法）
また、従来の「学校支援地域本部」等が「地域学校教育活動」として推進されていくことの提示（社教法）

 地方公務員法・地方独立行政法人法〔改正〕

▶▶ 能力評価・実績評価で行う人事評価制度の導入および評価結果の人事管理や人材育成への活用

平成27年

☐ 学校教育法施行規則〔改正〕

- ▶▶ 「チームとしての学校の在り方と今後の改善方針についての答申（同年）」を受け、教師が授業に専念でき、学校組織の機能強化を図るため、心理・福祉との専門職（SC・SSW・部活動指導員等）や機関との連携・協働を提示

☐ 小・中学校学習指導要領〔一部改正〕

- ▶▶ 「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として位置付けられる旨を告示

☐ 学校教育法〔一部改正〕

- ▶▶ 小中一貫教育の実施を目的とした「義務教育学校」の制度化

平成28年

☐ 学校評価ガイドライン〔改訂〕

- ▶▶ 学校評価を通じた保護者・地域との連携・協働体制の強化

☐ 教育の強靱化に向けて〔文部科学大臣メッセージ〕

- ▶▶ 「ゆとり教育」方針の転換

☐ 学校現場における業務の適正化に向けて〔答申〕

- ▶▶ 業務の明確化、勤務時間管理の適正化、給食費等費徴収管理業務担当の見直し、休養日設定など部活動負担の軽減による長時間労働の見直し

☐ 道徳科の学習評価・指導要録の改善等について〔通知〕

- ▶▶ 道徳科の評価上の配慮事項と指導要録作成上の記載事項・配慮事項等の提示

☐ 「次世代の学校・地域創生」プラン〔通知〕

- ▶▶ 「社会に開かれた教育課程」の推進と指導体制の充実、「地域とともにある学校」の提示

☐ 教育公務員特例法〔改正〕

- ▶▶ 国の策定した指針・任命権者の設置する協議会を経て策定した指標を踏まえた「教員研修計画」の策定、および十年経験者研修に代わる「中堅教員等資質向上研修」の実施

☐ 学習指導要領の改善及び必要な方策について〔中教審答申〕

- ▶▶ 「主体的・対話的で深い学び」の実現と、評価の観点の変更（4観点→3観点）について提示し、次期学習指導要領の方向性を明確化

平成29年

☐ 小・中学校学習指導要領〔告示〕

- ▶▶ 「社会に開かれた教育課程」を基本理念とする

☐ 第2次学校安全の推進に関する計画（2017～2021）〔閣議決定〕

- ▶▶ 学校安全に関する基本的な方向性と具体的な方策の提示

☐ 学校教育法施行規則〔一部改正〕

- ▶▶ 「チーム学校」の専門スタッフとしてのSC・SSW・部活動指導員の配置

☐ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律・社会教育法〔一部改正〕

- ▶▶ 対象学校を定めた「学校運営協議会」設置の努力義務化（地教行法）、推進員を委嘱しての「地域学校協働活動」推進（社会教育法）

☐ 地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン〔通知〕

- ▶▶ 地域連携の具体的なガイドラインを提示

☐ 教育の情報化加速化プラン〔文部科学大臣決定〕

- ▶▶ ICTを活用した次世代の学校・地域の創生のアクションプラン提示